

## データセンター 工事の無事祈る

湯沢で起工式

電気通信業アオスフィールド（新潟市東区）が湯沢町に新設する、コンピュータの冷却源に雪や川の水を使うデータセンター（DC）「湯沢ITテナフールド」の起工式が、同町土樽のDC建設予定地で開かれた。写真＝。関係者



約30人が出席し、工事の無事と運営の成功を祈った。

DCは、大量の電子情報を保管する施設。アオスフィールドは、町有地2590平方メートルを2021年9月まで無償（同10月以降は有償）で借り、サーバーを内蔵したテナナを設置する。雪や川の水を冷気に変換してテナナに送り、サーバーの熱を冷やす。

12月から川の水と外気を使い試験運用を始め、雪も利用した本格稼働は来年4月からの予定。管理や警備には、地元からの雇用も検討するという。

10月23日の起工式で、アオスフィールドの佐藤文則社長は「スキーや温泉と同様に、DCがある町として湯沢の名前を国内外に広めたい」と宣言。田村正幸町長は「DCを第一歩として、さらなる企業誘致を進めたい」と話した。